

目次

長野県内で見られる大型淡水性甲殻類 — モクズガニが語る川の歴史 —	(吉田 利男)	1
せせらぎ	(事務局)	3

長野県内で見られる大型淡水性甲殻類

— モクズガニが語る川の歴史 —

吉田 利男

長野県内に生息する大型淡水性甲殻類として、サワガニ、アメリカザリガニ、モクズガニがあげられる。他に、ヌマエビ、ヌカエビ、テナガエビ、カブトエビ、ホウネンエビ、ヨコエビ、ミズムシなどもあげられる。このうち、県内は山間溪流地が多いことから、サワガニは県内各地に生息し、代表種であろう（以下の市町史・村誌等参照：南安曇郡誌・1956、坂北村誌・1986、塩尻市誌・1991、川と湖と生き物・1992、梓川村誌・1993、中央アルプスと伊那谷の自然・1993、豊科町史2007、松本市史・1996、天竜川上流の主要な底生動物・1996、本城村誌・1998、三郷村誌・2005、明科町史・2007、千曲川の自然・1999）。

アメリカザリガニは、戦後から昭和30年代までは水田に多数生息していたが、水田の構造改善事業により畦が三面コンクリート張りの側溝にかわり、アメリカザリガニの生息の場が失われ、急激にその数が減少した。現在県内には殆んど生息していない。私が調査・観察したのは、1986年に坂北村の「老の洞の沼」で多数の個体を確認しているが、他にはごく一部、諏訪湖周辺の流域や、天竜川・千曲川の流域の一部に生息が確認されているだけで、そこは、川の流れの緩やかなワンドのような所である。

サワガニは移動能力が小さく、地理的隔離がすすんでいる。一方、モクズガニは海から川へ産卵のため遡上し、移動能力は大きい。昭和30年代以降、千曲川に西大滝ダムが造られ、さらに、犀川水系に生坂ダム・平ダム・水内ダム・小田切ダムが造られ、以降、松本地方への魚やモクズガニの遡上はみられなくなった。

しかし、時折、犀川水系で、モクズガニの生息が報告されている（林・宇和・沖野・1992、吉田・2007）。

実は、昭和42年夏に、私は松本にある信州大学教養部生物学教室の助手として着任し、その後17年経った昭和59年4月春の田植えが始まった頃、私の研究室へ電話があり、近くの岡田大門沢上流で、重機を用いて田耕しをしていた農家の方から、掘り出した土の中から大きなカニがでてきたとのことで、何というカニでしょうか？との内容であった。

私としては、川にいるカニは「サワガニ」で、大きくても甲羅の巾が2cmぐらいで、冬に卵を持つことぐらいは理解していた。ところが、電話の話では、甲羅の巾が5~10cmで、肢は2、3本とれてしまっているが、バケツに水を入れて飼っているとのことであった。それから2週間後に再び電話があり、カニが弱りかけてきたようで、大学に持っていくから、面倒を見てくれと言われた。

見ての驚きであった。足が数本取れてはいるものの、鉗の先に毛のようなものついている「モクズガニ」である（写真1）。そこで、持ち主の方に話を聞いたところ、昔、この大門沢ではこのカニが良く採れていた話を祖父から聞いたとのこと。



写真1 松本市岡田でのモクズガニ 1984.4

そこで、松本市内を流れる犀川水系で、今までのこ

のカニの捕獲記録を調べてみた。このカニは、産卵を海で行い、幼生（ゾエア・ミシス）は海で育ち、その後変態をして仔ガニとなり、その後成長しながら、河口域に行き、川を遡上する。河口域に集まる頃は、甲羅の中は4~5cmとなり、その後数年をかけて上流にのぼる。

犀川流域では、昭和55年（1980）に、波田町赤松発電所付近で、犀川田沢付近で、さらに牛伏寺川の寿地区付近で、昭和59年（1984）4月に、松本市下岡田の大門沢上流の水田の泥の中で越冬していた甲羅の中7cmにもなる個体が見つかった（林・宇和・沖野・1992、吉田・2007）。

さらに、平成10年（1998）夏に、犀川の明科塔の原付近で、甲羅の中が17cmにもなる10年以上は生きてであろう大型の個体が採集された（写真2）（吉田・2007）。

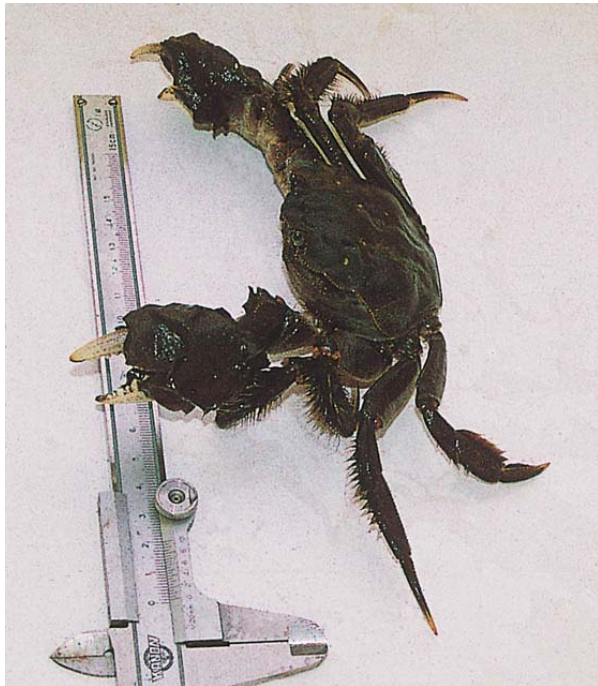


写真2 明科塔の原付近でのモクズガニ 1998.8

しかし、前述したように、千曲川や犀川に幾つかの大型ダムが造られ、魚やモクズガニの遡上は全く見られなくなったはずなのに、今でも犀川にモクズガニがいるのは、何を語るのでしょうか？ 昭和59年春の越冬個体の捕獲と平成10年夏の甲羅巾17cmの大型個体の捕獲は、ダム建設以前に遡上した個体が、いまでも上流域に生存していることを物語る証ではないだろうか？改めてダム建設時に魚道の設置が必要なことを、痛感させられる。

なお、このモクズガニは鉋みの背面に海草のような長い毛が総状に生えている。遡上は春（4~6月）と秋（10~11月）の2回行なわれ、春のときは腹に卵を持つといわれる。

今でも、最上川流域の山形県最上郡沢村では、このモクズガニの漁が行なわれており、「塩茹で」や、「汁物」、「蟹飯」などのモクズガニ料理が有名とのことである。

最近、中華料理で有名な「上海ガニ（チュウゴクモクズガニ）」が特定外来生物に指定され、生きてままでの国内輸入ができなくなった。それなら、日本にも在来のモクズガニがいるのだから、国内での増殖を考えてみるのはどうだろうか？・・・（山形県、秋田県、高知県などで養殖に成功し、出荷も始まっていると聞く）。

なお、1938年に、明科の長野県水産試験場にアメリカザリガニの仲間のウチダザリガニを移植したが、増殖しなかった。試験場の周辺の湧水に逃げて、現在も若干ではあるが生存しているという（川井 私信・2009）。

参考資料

- 1.南安曇郡誌 Vol.1 (1956)
- 2.坂北村誌 自然編 (1986)
- 3.塩尻市誌 自然編 (1991)
- 4.林・宇和・沖野 川と湖と生き物 信濃毎日新聞社 (1992)
- 5.梓川村誌 自然編 (1993)
- 6.中央アルプスと伊那谷の自然 伊那谷自然教育研究会 信濃毎日新聞社 (1993)
- 7.豊科町史 自然編 (1995)
- 8.松本市史 自然編 (1996)
- 9.天竜川上流の主要な底生動物 天竜川上流工事事務所 双葉印刷 (1996)
- 10.本庄村誌 自然編 (1998)
- 11.三郷村誌 自然編 (2005)
- 12.明科町史 自然編 (2007)
- 13.中村浩志 千曲川の自然 信濃毎日新聞社 (1999)
- 14.吉田利男 明科町史 (2007)
- 15.川井唯史 私信 (2009)

せせらぎ（事務局だより）

◎「川の自然と文化」談話会へ気軽にご参加ください

基本的に月末の金曜日 19 時より談話会を開催します。会員でない方も参加できますので、お問い合わせの上、気楽にご参加ください。

◎ニュースレターの原稿を募集します

研究報告、随筆、感想文、紀行文など、水に係わる内容であればジャンルは問いませんので、是非とも投稿をお願いいたします。投稿先は、m-info@smcf.org、または郵送でも構いません。

◎会費納入のお願い

平成 21 年度会費の納入をお願いいたします。正会員 3,000 円、学生会員 1,000 円です。

郵便振替口座 00530-8-58581

銀行口座 八十二銀行西松本支店 普通 376187

口座名称 NPO 法人川の自然と文化研究所

なお、3ヶ年にわたり会費を滞納されている方には、個別に継続の有無に関する意思確認をさせていただきます。

◎助成金情報

いくつか出したいと考えています。

◆地域づくり団体等活動支援事業

<http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/dantai/katsudousien.htm>

平成 21 年 1 月 1 日(火)～平成 22 年 1 月 31 日(日)

(1) 講師等派遣事業

地域づくり団体及び都道府県協議会が行う自主的・主体的な地域づくりのために講師等を招聘して開催する研修会等の事業について招聘する講師に係る謝金・旅費を各 10 万円、計 20 万円を限度に助成。

(2) 地域づくり活動支援事業

地域づくり団体が行う広報誌及びホームページの作成やレベルアップ、団体の運営等に関し、アドバイザーの指導・助言を受ける事業について招聘するアドバイザーに係る謝金・旅費を、各 10 万円、計 20 万円を上限に助成。

◆地球環境基金助成

http://www.erca.go.jp/jfge/subsidy/application/h22_info.html

平成 22 年 1 月 4 日(月)～1 月 25 日(月)必着

平成 22 年度の助成金は、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、循環型社会の形成等に資する活動を重点配慮事項とし、生物多様性の保全については、来年 10 月に名古屋で開催される生物多様性条約第 10 回締約国会議及び国際生物多様性年(2010 年)に関連する活動を特に重点的に支援する。

◆日立環境財団環境 NPO 助成

<http://www.hitachi-zaidan.org/kankyo/topics/topics46.html>

平成 22 年 1 月 22 日 (金)

「環境と経済との調和」、「環境と科学技術との調和」いずれかの目的を達成するための活動に対して助成。助成金額は原則として 1 件あたり 150 万円を上限とし、数件の助成を行う。

◆「東京ガス環境おうえん基金」助成事業

<http://www.tokyo-gas.co.jp/Press/20091109-01.html>

平成 21 年 12 月 10 日 (木)～平成 22 年 1 月 15 日 (金)

地域や地球の環境保全、環境教育・意識啓発活動に積極的かつ継続的に取り組む、非営利の民間団体の環境保全活動に対して、助成金を交付。

◆セブンイレブン緑の基金(環境市民活動助成)

http://www.7midori.org/josei/koubou_kankyo.html

平成 21 年 10 月 1 日～平成 22 年 1 月 8 日

(1) 自然環境の保護・保全など、市民が主体となって行っている環境活動に助成。

(2) 事務所費・人件費などの財政基盤を安定的に確保できる事業の構築を目指す団体を支援

◎編集後記

会の活動に、気軽に、楽しく、参加していただくために、皆さんからのご意見・ご要望を反映させつつ取り組んでいきたいと考えています。また、地域の水環境情報の集約・発信広場としての役割をさらに強化していくことができれば、と考えています。

今年も大変お世話になりました。来年も、皆さんが健康で充実した年となりますよう、祈念いたします。

NEWS LETTER 「川の自然と文化」 No.10

2009 年 12 月 28 日

特定非営利活動法人 川の自然と文化研究所事務局 発行

〒390-8205 長野県安曇野市豊科 2209 番地 11

TEL/FAX (0263)72-3768

HP <http://www.smcf.org> e-mail: m-info@smcf.org